

平成 31 年 4 月 1 日

平成 30 年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 生物資源学研究科
氏 名 岡島 賢治

活動テーマ	宮川用水のパイプライン内のタイワンシジミ詰まり問題解決に向けて
実施期間	平成 29 年 4 月 1 日 ~ 平成 32 年 3 月 31 日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>学外協力者・教員による組織を構成した。</p> <p>農業農村工学講座 教員 4 名</p> <p>地球環境学講座 教員 1 名</p> <p>海洋生物学講座 教員 2 名</p> <p>東海農政局農村振興部農村環境課 課長ほか</p> <p>三重県伊勢農林水産事務所宮川用水室 室長ほか</p> <p>水土里ネット宮川用水 管理課職員</p> <p>その他の活動として、以下のことを行った。</p> <ul style="list-style-type: none">・研究活動打ち合わせ <p>平成 30 年 7 月 13 日 10 : 00 ~ 12 : 00 @ 生物資源学部 207</p> <ul style="list-style-type: none">①今年度の取組調査②情報交換 <p>参加者</p> <p>三重大学教員 2 名 学生 2 名</p> <p>宮川改良区 3 名、</p> <p>東海農政局 4 名、</p>

三重県庁農業基盤整備課 1 名、
松阪農林事務所 2 名、
伊勢農林水産事務所 2 名
農研機構農村工学部門研究員 1 名

・現場視察

平成 30 年 10 月 4 日～5 日九州シジミ被害地区視察

参加者

三重大学教員 1 名 学生 2 名

東海農政局 1 名、

宮川改良区 2 名、

受入機関

九州農政局南部九州土地改良調査管理事務所

視察場所

宮崎県一ツ瀬川土地改良区

宮崎県尾鈴土地改良区

・研究活動打合せ

平成 30 年 11 月 28 日 10 : 00～12 : 00@生物資源学部 207

①東海農政局調査事業内容確認

②情報交換

参加者

三重大学教員 2 名 学生 2 名

東海農政局 4 名、

宮川改良区 2 名、

三重県庁農業基盤整備課 1 名、
松阪農林事務所 2 名、
伊勢農林水産事務所 2 名

・現地調査

平成 30 年 12 月 13 日（木）13：30～15：00

場所：外城田川横断付近

参加者

三重大学教員 1 名 学生 2 名

宮川用水土地改良区 2 名

東海農政局 4 名

三重県庁農業基盤整備課，伊勢農林水産事務所 5 名

(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与，広がり）

本事業は、宮川用水管内で発生しているタイワンシジミの給水栓詰まりという現実の課題に対して、官学民で連携して解決に向けた調査を行っていることが特徴である。特に本年度は、九州農政局などの他県地域や中勢用水など他地区との連携を取ることができ、県内、全国のタイワンシジミ被害調査へと広がりをつくりつつある

(3) 共同実施者との連携状況

本事業では、東海農政局農村環境課、三重県農林水産部農業基盤整備課、三重県松阪農林事務所、三重県伊勢農林事務所、宮川用水土地改良区を共同実施者とした。三重県農林水産部農業基盤整備課と農業土木学

講座との学官連携協定、東海農政局と生物資源学研究科の連携協定における共同事業としても本事業を取り上げた。

(4) 大学の教育・研究成果のかかわり

本事業の調査を通じて卒業研究に1名の学生が取り組んだ。成果の一部は平成30年農業農村工学会大会にて口頭発表しており、本年度1報の論文が学術雑誌へ掲載され、さらにもう1報投稿中の論文もある。

(5) イベント等開催実績（名称、実施場所、参加人数等）

(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

西村元輝，岡島賢治，鈴木唯：宮川用水における排泥操作によるタイワンシジミの排出量調査，平成29年度農業農村工学会大会講演要旨，神奈川県藤沢市，2017

鈴木唯，岡島賢治，西村元輝：宮川用水末端パイプライン内でのタイワンシジミの集積，平成29年度農業農村工学会大会講演要旨，神奈川県藤沢市，2017

岡島賢治，西村元輝，長岡誠也，伊藤良栄，近藤雅秋，宮川用水国営1号幹線水路内のタイワンシジミの生息状況，農業農村工学会論文集，306，I_71-I_78，2018

岡島賢治，長岡誠也，宮川用水パイプライン内のタイワンシジミの生息状況，平成30年度農業農村工学会大会講演要旨，京都府京都市，2018

(7) 今後の予定

本活動は，三重大学生物資源学研究科内での学際的な協力関係のみならず，土地改良区という農家組合，三重県庁，東海農政局との緊密な連携の取れた活動となっている。平成31年度以降もこれらの協力関係を維持しながら，本年度同様の活動を継続していく予定である。具体的には，年数回の研究活動打ち合わせ，現地調査が中心となる。

平成30年度に三重県内，九州のシジミ被害地域との連携を構築することができたことから，これらの地区のタイワンシジミの同定や水質分析を行うことを予定している。この成果から，宮川用水のシジミ被害の要因分析が可能と考えている。